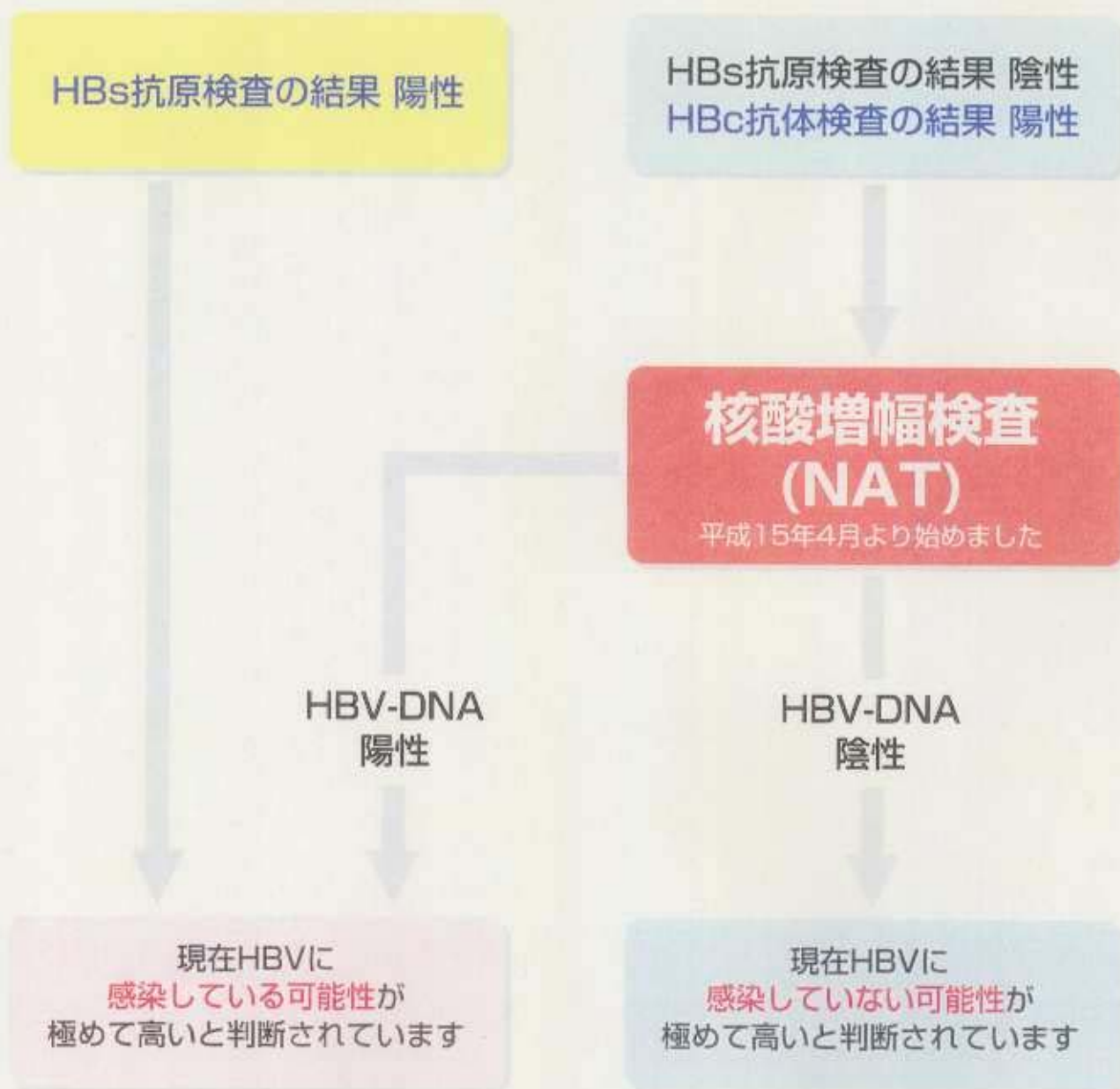


献血者の皆様へ

赤十字血液センターでは、輸血の安全性を確保するため、B型肝炎ウイルス（HBV）の検査としてHBs抗原検査、HBc抗体検査を行っております。これまで、HBs抗原検査の結果が陽性となった方に対しては検査結果をお知らせしておりました。平成15年4月からは、HBs抗原検査の結果が陰性であっても、HBc抗体検査の結果が陽性である方に対して、核酸増幅検査によりHBV-DNAを検査する体制が確立したことで、HBVに感染しているかどうかについて、より正確な結果をお知らせできるようになりました。



B 型 肝 炎 ウ イ ル ス

HBV

検査結果の通知について

献血にご協力いただきありがとうございます。



B型肝炎ウイルス (HBV) とは?

肝炎ウイルスには、A型、B型、C型、D型、E型などがあります。HBVの感染によって起こる病気がB型肝炎です。HBVは血液を介して感染するため、患者さんへの輸血の安全性を確保する上で極めて重要なウイルスです。

HBs抗原とは?

一般にHBVに感染している場合には、血中にHBs抗原が検出されます(HBs抗原陽性)。しかし、HBs抗原が検出されない場合(HBs抗原陰性)でも、HBc抗体陽性の血液の一部には、核酸増幅検査(NAT)によりごく微量のHBVが検出される(HBVに感染している)場合があることがわかりました。

HBc抗体とは?

HBc抗体は、生体内に入ったHBVの芯(コア抗原)に対して、生体が認識して作り出した抗体です。HBc抗体が検出される(HBc抗体陽性)ということは、現在HBVに持続感染しているか、過去にHBVに感染して治った後(感染既往)の状態にあることを意味します。

核酸増幅検査 (NAT) とは?

核酸増幅検査(NAT)は、ウイルスを構成する核酸(DNAまたはRNA)の一部を約1億倍に増幅して検出するため、ごく微量のウイルスでも現在、血液の中に存在するかどうか(感染しているか)を知ることができる検査法です。